

# 地域住民の避難行動の選択とその背景要因に関する一考察 —個別避難計画の実効性確保に向けて—

NPO法人 災害看護研究所

## 目的

令和4年8月豪雨災害で被災したA町住民の災害時の避難に関する認識や平時の行動を調査し、個別避難計画の啓蒙や防災教育を行う上での基礎資料とする。

## 倫理的配慮

調査用紙は無記名であること、参加は強制ではなく調査対象者の自由意思であることを説明し、用紙が返却されたことで同意が得られたものとした。

本研究は研究助成を受けておらず、利益相反はない。

## 方法

調査期間：2023年1月

調査対象者：A町および周辺自治体の住民160名

データ収集方法：選択式・記述式調査用紙を作成し、質問項目には2段階の順序尺度を設定。対象者に無作為に用紙を配布し回答を依頼した。

データ分析方法：選択式質問項目は単純集計した。自由記述式の質問項目は意味内容の似たものを分類し、回答の傾向を分析。また、災害時に避難所へ行く選択と被災経験や災害に関する知識との関連をクロス集計し傾向を分析した。

## 結果

### 1)回答者の基本属性

回答数 76名(回収率47.5%、男性20名、女性56名)

年齢構成は10代以下2名(3%)、20代3名(4%)、30代9名(12%)、40代10名(13%)、50代14名(19%)、60代18名(24%)、70代以上19名(25%)であった。

### 2)避難行動について

(1)自宅周辺でどんな災害が  
起こりやすいか知っているか

知っている 51名  
知らない 20名  
未回答 5名

(2)災害時に避難所に行こうと思っているか

はい 58名  
いいえ 18名

(3)「いいえ」と答えた理由  
「子どもや介護者と同居しているため」  
「避難所までの経路が危険」など

### 3)災害時の避難に関する備えについて

(1)災害時の避難について誰かと  
話し合ったことがあるか

はい 52名  
いいえ 22名  
未回答 2名

(2)「はい」と答えた場合、  
誰と話し合ったか(複数回答)

家族	35名
近隣住民	7名
職場の同僚	3名
友人	3名
その他	1名

### 4)避難行動の選択と各質問要素との関連

		災害時には避難所に行こうと思っているか	
		はい	いいえ
自宅周辺にどんな災害が 起こりやすいか 知っているか	知っている	38	13
	知らない	17	3
	未回答	3	2
災害時の避難について 誰かと話し合ったことが あるか	はい	38	14
	いいえ	18	4
	未回答	2	-

## 考察

調査の結果、避難所に行かないと判断する理由として、過去の経験に伴う経路の不安が挙げられた。先行研究において、過去の経験が避難を抑制する因子になりうるということが指摘されており、避難経路の確認や避難方法について改めて周知・訓練することが必要であると考えられる。また、子どもや介護を要する家族がいるため、避難を選択しないという回答も散見された。これらの状況に対しては、支援が必要な住民に対してのサポートができるような地域での連携促進の必要性が示唆された。一方で、避難行動を促進する一因として、家族や近隣住民等と災害時の避難について平時から話す機会を設けることが有効であると推察された。過去の調査では避難に関して、事前の経路の確認や、家族等と話し合っておくことが避難行動と言われている。住民が避難を想定した時に感じる困難に対し、知識の提供や訓練、話し合いを地域全体で行うことが個別避難計画の実効性を確保していく一助になると考える。